

街

支部だより 2015. No. 2



北海道建築士会札幌支部

80歳になって建築士会に想うこと

前田 富子

このごろ、士会の事業を見ますと、専攻建築士制度登録、ヘリテージマネージメント育成、まちづくり活動、家庭科住教育出張講座など魅力あるセミナーが載っている。私も、もう10歳若かったなら、どれも、これも参加したいものばかりだ。

私が士会に入る切っ掛けは、49歳の時、初めての一級建築士の試験会場で、勝手に分らず、おにぎり一個を持って行き、水飲み場をさがして廊下に出たら、試験監督の士会の青年が「お茶をあげるよ」と手招きしてくれた。その親切に感動した。その年合格後、士会に入れていただき、初めて参加した会合で、突然の「黙禱」だった。あの時の青年に「ありがとう」の一言が言いたくて出席したのに、あの時の青年の訃報を知らされた。その後寄稿した“木村さんに一輪の白菊を捧げたい”の一文は、士会活動の始まりだった。

私は、その時の流れで、道士会での活動となったが、士会活動は、地域社会の中での支部活動が中心であるのかなあ〜。と今、思っている。仕事で顔見知りの仲間が、地域社会の地元で集い、語り合い、切磋琢磨し、仕事に、まちづくりに貢献出来る。と同時に自分自身の成長の糧にもなっている。又、何よりも、語らいながらの飲み会は、本当に楽しいことでもある。

私が今日まで、建築に関わって来られたのも、士会に入って、周りの皆さんにお世話になりながら、学んで来れたことに感謝、感謝です。

毎月、“建築士”他が届くと、一日掛りで、

読んで楽しんで居ります。又、耐震改修事例集、マニュアル（国交省）などの配布もありがたいですね。

人生終るまで、会員で居られたらと思うが、果たして、どうなることですかね……。

冬期を除いては、ゴルフの他、いろいろな野菜や、お花などを作り汗を流している。畑で疲れたら、ポットからのホットコーヒーで、緑の山々、白い雲を眺めながら、コーヒーブレイクも、また楽しい。とは言うものの、実は、脚、腰にサロンパスを貼りながら、80歳を、いやと言う程実感している。

時には、ご近所、お友達、施設の皆さんにお裾分けして、「無農薬です」と自慢したりで、相手にしては、ご迷惑かもね。

困った年寄りをやっています。

「まかぬ種は生えぬ」だが、蒔きただけでは、草がぼうぼうで、なにも獲れない。お陽様、空気、水など自然の恵みで育つものではあるが、育てると云うことは、手塩にかけただけ、美味しく育て、答えてくれるのもうれしい。又過保護にすると、結果はあまり良くない。ひ弱になり、少々のストレスにも耐えられない。

又庭木の剪定などは、確かな知識と技術で、大胆に大鉈を振ることも要求される。子育ても同じこと。だ

が少し違う。子供は、自我に目覚めてくると自分の意志で行動しようとするので、“親の背中を見て育つ”とも云うが、そう簡単には行かない。

私も、昔、二人の子育て中、夫に「おまえのは、子供を育てているのではなく、子供が、自分で育てている」と言われたこともあったが、仕事をしながらの子育ては、放任の様に見えたのかも知れない。だが、肝心要の要だけは押えて育てたつもりではいるのだが……。

会員の皆様の日頃のご努力がチームの力となり、引き継がれ、年々成長を重ね大きな力になっている。継続は力なりですね。

今後の建築士会の益々のご発展と、今だからこそ、耐震改修、まちづくりなどの社会貢献と、会員皆様のご健康とご成長を心から願って居ります。

皆さん、いつの日か、ふと街角で出会ったなら、「まだ生きていたのかい」と肩をたたいて下さい。私も「がんばっているかい、あんまり、飲むなよ」と老婆心ながら声をかけたいと思っています。

最後になりましたが、この度の賞をいただきましたこと、支部長はじめ、会員の皆様、誠に有難うございました。

心から、お礼申し上げます。



永年会員表彰（H27年1月27日 札幌支部総会にて）

中島公園散策・今・昔

山本明恵

暖かい春の陽気に誘われて、中島公園の散策にでかけた。家からは約300mを東に歩くと中島公園入り口に突き当たる。市電中島公園通りの電停を過ぎると桜並木が鴨々川に架かる橋まで続いている。

そこから右へ行くか、左へ行くかで足が止まる。左だと現在豊平館の修復工事で道幅は狭くなっているため、右から行くことに決め歩き出す。最初に見えてくるのは小高い丘の上にある「天文台」だ。小学生の頃はただの小山で、冬は格好のスキー場だった。由来は分からないが「おかだやま」と呼んでいた。もうひとつ、池寄にも少し高く尖った形の「からすやま」もあり池に向かって滑った。その後「からすやま」には、ウォーターシュートができ、池に向かって飛び込む爽快さがあった。



桜並木が鴨々川に架かる橋まで続いている

その山はいつの頃かなくなり、今は平坦な芝生となっている。

天文台を通り過ぎて右手に「札幌コンサートホール・キタラ」がある。

キタラができる前は、遊園地「こどもの国」と、野外コンサート場、もっと前は、相撲場もあったと記憶している。「こどもの国」の売店で中学1年の時、初めてのアルバイトで、かき氷づくりをしたことが懐かしい。

「キタラ」の前の広場では、この時期恒例の「園芸市」が開催されている。小振りな樹木の苗木や一年草、多年草の草花が所狭しと並べられ、五月の日差しを浴び、買主を待っている。観葉植物の「レディケイ」を一鉢買い園芸市を後にする。

幌平橋側近くには、「弥彦神社」、「中島体育センター」がある。弥彦神社は商売繁盛の神様が祀られているので、正月の参拝客は、すすきので商売をしている人が多い。中島体育センターが建つ前は、かまぼこ型の建物「中島スポーツセンター」があった。昭和30年代は毎年夏になると大相撲札幌場所（巡業）が行なわれ、相撲

ファンだった私は、ひいき力士を見ようと日参していた。「中島体育センター」と「道立文学館」との間くらいに、中島球場があり、冬はスケート場として開放されていた。スケートは得意でなかったが友達と何度か滑った記憶がある。

そこから少し池沿いを歩くとボート乗り場が見えてくる。池に出ているボートは一艘だけで、暇な係員のおじさんも西日を受けて居眠り中だ。

もう少し北へ歩くとパークホテルにつながる路になる。秋には燃えるようなイチョウ並木となり、銀杏を拾いにくる人も多い。そこから引き返して児童会館（ここにだけわずかに子供が遊べる遊具がある）前を通り、「日本庭園」へ向かう。入り口を抜け小さな池や庭を眺めながら「八窓庵」へ。中は見学できないので外側だけ見ることに。庭の奥に小さな滝も配されていて、真夏は涼しい場所になる。日本庭園とそのそばに、珍しい二本の枝垂れ桜がある。

豊平館の修復工事も進み、外側の足場を外す工事中で、北側の壁が鮮やかに姿を現している。

豊平館を過ぎると、公園入り口に戻ってくる。約1時間の散策が終わった。

豊平館を過ぎると、公園入り口に戻ってくる。約1時間の散策が終わった。



小高い丘の上にある「天文台」



中島公園の池

法人（団体）を訪問する（その37）

「飛んでけ！車いす」の会 ～手から手へ 誰でもできる国際貢献～

情報委員会 取材班

車いすがあれば、どんなに世界が広がるだろう。

車いすがあれば、どんなに有効な時間が過ごせるだろう。

世界には車いすが手に入らない国がまだまだあります。そんな国外の人々へ何とか車いすを届けたいと発足したのが「飛んでけ！車いす」の会です。

今回は、この会の理事で北海道大学名誉教授であります、城攻（じょう おさむ）氏にお話を伺いました。

1998年5月、柳生一自代表、吉田三千代顧問を中心に設立され、その3日後には早くもタイへ1台目の車いすが搬送されたそうです。驚くべき行動力ですね。

その後、徐々に会員も増え始め、現在は正会員、賛助会員合わせて約400名となっています。

3

■「飛んでけ！車いす」の使命

「飛んでけ！」の大きな特徴としては、日本で使われなくなった車いすを丁寧に整備、清掃した後、その車いすを旅行者に託して運んでもらうところでしょう。日本では他人が使った車いす（医療・福祉用具全般）を使う事に抵抗がある人も多いらしく、国内での再利用は少ないとの事。まだまだ活躍できる車いすを、お金を掛けずに必要とする人へ届ける事が出来るなら、こんな有意義なことはありません。ただ、限りある予算の中で制限されることも少なくないと思われますが、そんな活動を応援しようと設立当初より協力してくれている会社もあり、活動の支えとなっています。

支援の方法としては、保管場所の提供や車いすの引取り、車いす整備などの人的協力、売上が還元される寄付システムなど、社会貢献活動の一環としてその輪は広がっています。

車いす提供者－事務所－整備者－旅行者－受領者という輪になった活動は、顔の見える国際協力です。届けられた時の様子や、実際に使われている様子などがホームページで紹介されており、届けた人、贈られた人、両者の笑顔にこの活動の意義を実感します。

■車いすがもたらすもの

具体的に、車いすがある事で生活はどう変わのでしょうか？

- ・介助なしで家の中や外への移動が可能になり、自立した生活が出来るようになります。
- ・学校にも自分で通えるようになり知識の向上や友人を得て世界が広がります。
- ・仕事を持ち経済的な自立に近づけます。

また、使う本人だけでなく、共に暮らす家族にとっても大きな変化をもたらします。今まで家族が子供な

どを背負っての移動が車いすの使用により、負担はぐっと軽減し、仕事や家事に専念できる時間が増えます。車いす使用者を目にする機会が増える事で、その境遇を考える機会も増えます。大都会を持つような国でも子供用車いすは作っていない話を聞いて驚きましたが、車いすのサイズもあまり選べず、体格に見合ったものが手に入りにくいのが現状です。

■車いすが飛んで行くまで

ここで、具体的に車いすはどのように飛んで行くかをご紹介します。

提供される車いすは、介護施設、病院、社会福祉協議会、個人、学校、企業などからの申し出により、運送会社の協力（引取りボランティア配達のついでに寄る）で、事務所へ運ばれます。今は事務所内で整備作業が出来るようになりましたが、それまでは運送会社の倉庫の一角を提供頂いての作業で、冬期間はなかな



集まった車いすは番号で管理されています



パーツ分け

か厳しいものがあったそうです。

車いすの整備作業はシニアボランティアの方や学生さん、企業ボランティアの方々により行われています。ボランティアの方々は全く畑の違うお仕事をされていた方達だそうですが、手馴れた様子で着々と仕上がって行きます。

どの国でどのような車いすを必要

としているのかを、コーディネーターが提供先の国と連絡を取り合い調整します。行き先の決まった車いすは企業の引取りボランティアにより、空港の宅配カウンターや旅行者の自宅へ配送され、いよいよ旅行者と共に海外へ。

年間100～120台の車いすが届けられているそうですが、荷物制限が厳し

くなり、無料預かりの荷物が2個から1個に、3辺の合計が203cmだったのが158cmとなり、車椅子は180cm以上となるため寄贈活動が難しくなった航空会社もあるそうです。杓子定規に制限するのではなく、このような活動には特例として緩和規定を設けて欲しいものです。



各部分をチェック



パーツの取替



ベアリングの洗浄



皆で協力し合って

■今まで飛んだ車いす

海外へ飛んだ車いすは78ヶ国、アジア・大洋州で2028台、中南米で225台、アフリカ・欧州で200台、日本国内では一時使用などで95台（2015年2月調べ）となっています。飛んで行った国の1位はベトナムの556台。この数字から見えてくるのは戦争。1960年代のベトナム戦争、1979～1989年のカンボジアの内戦により、今もなお7000～1億個もの地雷が埋まっていると言われています。また枯葉剤散布による障がい児の増加や、クラスター爆弾（拡散する子弾を内蔵する爆弾）による不発弾にはパラシュートなどが付いた子供の興味を引くようなものもあり、子供の負傷が多く発生しています。それらは「非人道的兵器」と呼ばれていますが、城先生との会話で、「兵器自体が非人道的なのだから、人道的兵器があるとすれば人間ではなく兵器だけを壊すものだろう」とおっしゃっていたのが印象に残ります。

■今世界では

世界を見ると、世界中の障がい者数は5億人以上で、ほとんどの国で10人に1人は何らかの障がい（身体的・精神的）を持っており、障がいに応じたサービスを受けられない地域に住んでいる人たちが3億5千万人いるとの報告もあります。また、社会的障壁により、隔離や低質な生活に陥っているという記述もありました（公益社団法人 日本障害者リハビリテーション協会 情報センターHPより）。この数値がいまひとつ実感できなくて、世界の現状を調べていくうちに、日本が世界一の長寿国となれたのは、政治的に安定しているからだというのが分かります。国の問題も個人の問題も色々抱えているにせよ、今元気で、平和と呼べる国で暮らせているのは奇跡のようなものなのかも知れません。

■飛んだ車いすは今

さて、話を戻して、「飛んだ車いす」のその後が気になります。「飛んでけ！車いす」ではボランティアと会員で対象国への「スタディーツアー」を年1、2回開催しているそうです。

ツアー目的としては

- ・なかなか情報が入ってこない国の障がい者生活環境の把握や介助体験
- ・両国の健常者と障がい者が共に環境改善を考える
- ・現地における車いすの修理（電動はNG。現地で整備が出来ない）
- ・現地での整備技術指導
- ・車いす需要等に関する調査
- ・複数台の車いすを同時に運べる

などがあげられます。これらの調査から、使用者の障がいの程度に見合っていない場合も見られ、適切な調査項目表の用意が必要、空気入れの寄贈（低所得層では持っていない場合が多く、自転車店では有料）、修理工具の寄贈、修理技術の講習や技術者の養成が是非必要との結果になりました。

■若い時から

この活動には様々な人が係わっています。地元のみならず、国内外か

らのインターン生の力も大きいようです。海外留学生においては会報誌の英文訳や、帰国時に車いすを運んでもらうことも出来ます。また、会報誌の作成スタッフとして高校生や大学生が活躍し、とても充実した内容になっています。「飛んでけ」にふさわしいフットワークの軽さが伺え、紙面から若さがにじみ出ています。我々も見習わなければ…

■さまざまな活動

この会の活動のひとつに、車いすでの路線バス利用を促す提案があります。意識してバスを見ていると車いすマークの付いたバスがあります。これは予約なしで乗車可能ですが、バス会社に乗車日時と停留所を事前に予約すると、車いす使用者のための研修を受けた運転手さんと共に配車してくれるので安心です。JRや地下鉄はバリアフリー化が進み、車いす使用者には必要不可欠な交通手段ですが、バスの利用によって更に行動範囲を広げて欲しいと「車いす使用者のための乗車ガイドブック」も発行されました。どこかで冊子を見かけたら是非手にとってみて下さい。車いすを使用しない人にも、なるほどと思える内容です。



「飛んでけ！車いす」の活動は、ボランティア人員による実働と、会員の年会費、助成金への応募、スポンサーの獲得などにより運営されていますが、やはり基盤は会員の確保。（それは我々も同じですね）この活動に興味を持たれた方は是非ホームページを訪ねてみて下さい。きっと何かを始めてみたくなりますよ。

始めてみませんか？ 今からできるボランティア

- ・リングブル180キロ+中古車いす→6人分の車いす（+笑顔）
- ・書き損じハガキ→切手に交換して支援者に海外の状況を伝える
- ・1円玉貯金
- ・寄付（いくらからでもOK）

郵便振替口座 口座番号：02780-6-2973

口座名義：認定NPO法人「飛んでけ！車いす」の会

連絡先 認定NPO法人「飛んでけ！車いす」の会

〒064-0822 札幌市中央区北2条西28丁目2-8

電話/FAX 011-215-8824

事務所開放時間：月～木（平日） 午後14:00～17:00

ホームページ：<http://tondeke.org/>



左) 事務所のスロープ
元々は写真スタジオでした

右) 車いすの人も閉めやすいレバーはバネにより自動で戻ります

城先生渾身のバリアフリー工事（全てDIY）



車いす用に拡張したトイレ
ドアはおもりで自動で閉まります



城先生と 長時間の取材ありがとうございました
H27年5月（「飛んでけ！車いす」の会 事務所にて）

構造計算適合性判定の 手続の変更等について

札幌市都市局建築指導部建築確認課

平成27年6月1日施行の「建築基準法の一部を改正する法律（平成26年法律第54号）」により、構造計算適合性判定の手続が変更されました。以下の通り変更点の概要をまとめましたのでお知らせします。

なお、札幌市の建築指導部ホームページでも掲載していますのでご覧ください。

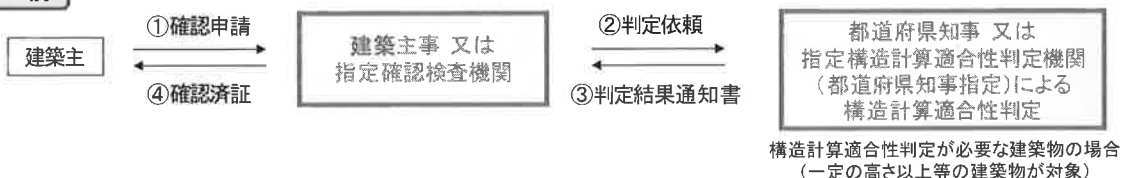
(<http://www.city.sapporo.jp/toshi/k-shido/kakuninn/kozo-tekihansinsei/kozo-tekihansinsei.html>)

構造計算適合性判定の手続の変更について

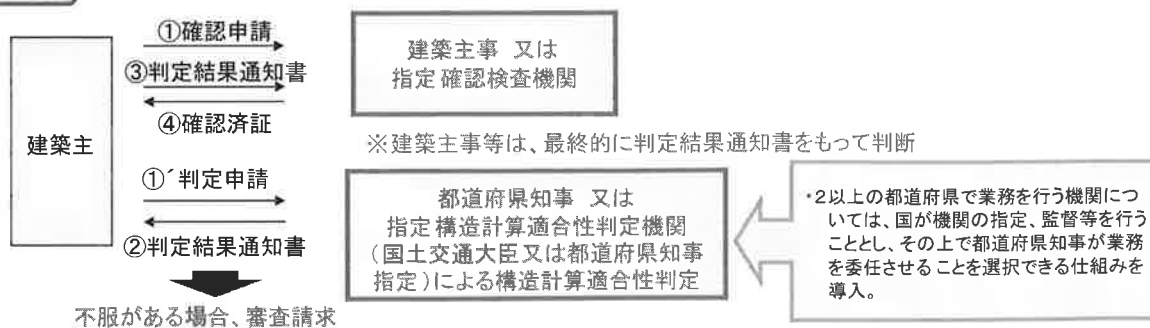
従来、構造計算適合性判定については、建築主事等から判定機関に依頼することにより実施されてきました。法改正後は、建築主が判定機関や申請時期を選択した上で、構造計算適合性判定を直接判定機関に申請することとなります。

この変更により、建築主が建築主事等への確認申請と判定機関への構造計算適合性判定の申請を別々に行うこととなりますので、判定機関から適合判定通知書が公布されましたら、判定通知書又はその写しを期日までに建築主事等に提出してください。

改正前



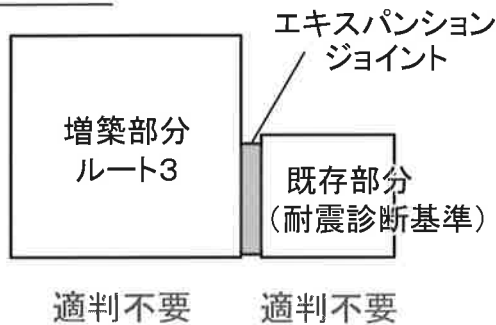
改正後



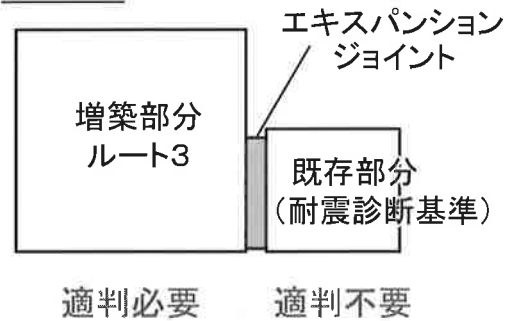
既存不適格建築物への増改築時の構造計算適合性判定の義務付けについて

従来、既存不適格建築物への増改築を行う場合には構造計算適合性判定は不要とされていましたが、法改正後は、施行令第9条の2に規定する特定増改築構造計算基準に該当する場合には、判定機関の構造計算適合性判定を受けていただく必要があります。

改正前



改正後



出典

国土交通省ホームページ (<http://www.mlit.go.jp/common/001081429.pdf>) の一部

構造計算に関する高度の専門的知識及び技術を有する者として 国土交通大臣省令で定める要件を備える者である建築主事による審査について

法改正後の建築基準法第6条の3第1項ただし書の規定により、建築物の計画が政令で定める特定構造計算基準又は特定増改築構造計算基準（許容応力度等計算（ルート2）によるもの）に適合するかどうかを「構造計算に関する高度の専門的知識及び技術を有する者として国土交通大臣省令で定める要件を備える者である建築主事」（以下「ルート2主事」）が審査をする場合には、構造計算適合性判定が不要になる特例制度が設けられます。

しかし、札幌市では当面の間上記のルート2主事による審査を実施しませんので、判定機関の構造計算適合性判定を受けていただく必要があります。

問い合わせ先

札幌市 都市局 建築指導部 建築確認課 構造確認担当課

☎：011-211-2846



名建築を巡る旅

一級建築士事務所 アトリエK 河村 和 義

学生時代、必ず建築雑誌で見て憧れでもあるフランク・ロイド・ライト設計の落水荘、グッゲンハイム美術館。そしてフィリップ・ジョンソン設計のガラスハウスなどを見学するツアーに参加した。企画は私が所属する北海道中小企業家同友会で、昨年はアメリカ西海岸へ、サンフランシスコではライトの遺作であるマ

リン郡庁舎やハンナ邸を、ロサンゼルスではゲティーセンター・ウォルトディズニー・コンサートホールなどの現代建築を視察した。

4月23日から30日までの日程で
アメリカ東海岸へ

23日、ワシントン DC に到着後、

ホワイトハウス～国会議事堂など定番の施設を見学する。

24日

アメリカ建築博物館を見学後、スミソニアン協会が運営する国立歴史博物館～国立自然史博物館～国立美術館を駆け足で巡る。

グラウンドゼロ ▶



▲ ワールドトレードセンター・タワー 1

▼ 落水荘（カウフマン邸）



◀ 落水荘内部



◀ ゲッゲンハイム美術館



▼ グラスハウス (上)内部・(下)外観



25日

ホテルよりバスで約1時間、ペンシルバニア州ピッツバーグ郊外にある落水荘へ。アメリカのデパートのオーナーであるカウフマン氏の別荘である。1935年に新築された建物も構造的な問題で2002年にキャンテレーバーを修復した。内装はライトらしく外部の視野を強調するため天井は低く抑え、モダニズムの流れをくみ幾何学的な装飾と流れるような空間構成が特徴で、室内には浮世絵も飾られ日本文化から少なからぬ影響を受けていることがわかる。

26日からは私自身5回目の
ニューヨークへ

グラウンドゼロ（爆心地を意味する）ではWTC（ワールドトレードセンター）タワー1（高さ541.3m）、SOMのデイヴィット・チャイルズ設計と、槇文彦設計のWTCタワー4（高さ297m）を見学。引続きセントラルパークに隣接するゲッゲンハイム美術館を見学し、夜はブロードウェイでミュージカル「マンマミーヤ」を観劇した。



27日

メトロポリタン美術館訪問の後、昼からエンパイアーステートビルへ昇り、芦原建築事務所へ訪問し、夜はヤンキースタジアムで対レイズ戦を野球観戦。

28日

ニューヨークから1時間ほど郊外のグラスハウスへ。フィリップ・ジョンソンは、19万㎡の敷地に10棟の建物をその森の中へ建築した。グラスハウスは1945年に建築した彼の週末住宅で、アンディー・ウォーホルなどもよく遊びに来たようです。フィ

リップ・ジョンソンは晩年までここを使い続け、2005年、98歳でこのグラスハウスのベッドで息を引き取っています。この建築とアートを結びつけたデザインは今も輝いている。

それからエール大学へ行き、ルイス・カーンの設計した「英国美術研究センター」を見学した。夜は「北海道ゆかりの会」の皆さんと交流会をし、ライブバー「ヴィレッジ・パンガード」でジャズを満喫する。

29日

アメリカ東海岸において「名建築を巡る旅」は慌しく終わり、学生時代の憧れの建物を十分堪能し帰国の途へ。

青年のページ

青年委員会 HP : <http://h-ab.com/sapporo/seinen/> 青年委員会のブログ : <http://hokkaido-sapporoshibu-seinen.blogspot.com/>

「道央圏酒造工場見学ツアー

～工場建築に潜む歴史と佇まいを感じよう なんてね♪～

札幌支部青年委員 細 越 里 佳

4月18日よく晴れた春の空の下、道央ブロック圏の青年建築士らによる第1回道央ブロック協議会が行われました。道央ブロック協議会は道央圏の各支部による輪番で年3回開催され、そのうち1回は札幌支部が主催となります。

今回の研修会は『道央圏酒造工場見学ツアー』と題され、登録有形文化財の酒蔵群の残る栗山町の小林酒造と小樽の軍需工場を移築しワイナリーとして再生した岩見沢にある宝水ワイナリーを見学しました。



小林家の見学

小林酒造へ

初の試みだった移動のバスの中での協議会を終えて到着したのは、栗山町の小林酒造です。1901（明治11）年に札幌から豊富な水と広大な土地を求めて工場を移転した小林酒造は、以来100年の時を経て今も栗山の地で酒造りを続けています。今回小林酒造でのメインイベントは日本酒の試飲…ではなく、2014年から公開を始めた北の錦創業者、初代小林米三郎の自宅「小林家」の見学です。1897年（明治30年）に建築されたこの建物には2013年まで小林家の方々が

暮らされており、2006年には登録有形文化財にも登録されました。日本家屋特有の直射日光が入らないつくりのこの建物での暮らしは、冬は外より寒く、また、段差も多く決して快適ではなかったと、案内してくれた小林家の方は語って下さいました。それでも代々にわたりこの家を守り続けてきた小林家の人々の力強い姿がこの建物を見学していると胸の内に浮かんできました。そんな小林家を象徴するパンフレットのマークも秀逸です。このシンボル、普通にみると徳利ですが、逆から見ると…。お客様を接待したという大広間には

豪華な食器や調度品が並び、小林酒造の全盛期を偲ばせていましたが、三代目米三郎の昭和の時代には日本酒がビールやワインに押され、廃業を考えるほど苦しい時代もあったそうです。そのような苦しい時代をも乗り越え、小林家の人々はこの家を守り続けてきたのです。

小林家の次に、現在でも日本酒づくりに利用されているレンガ造の蔵を見学させていただきました。

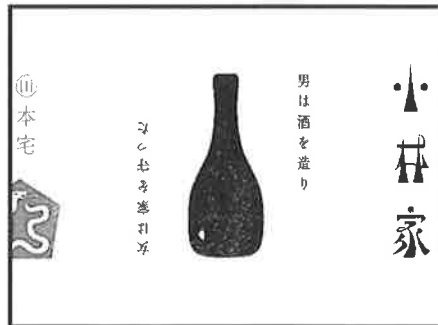
そして最後はお待ちかねの試飲コーナーです。現在の小林酒造は北海道米にこだわった酒づくりを展開しています。今回青年委員会メンバーに一番



小林家大広間



二代目の妻の着物のパッチワーク



小林家のシンボルマーク

人気だったのは純米大吟醸「雪冷酒」で米の甘さの生きたフルーティーな味わいに100年の時を経て受け継がれ続ける小林酒造の底力を感じました。

宝水ワイナリーへ

岩見沢市にある宝水ワイナリーは、昨年映画の舞台にもなり注目を浴びているワイナリーです。小樽市の軍需工場を移築しワイナリーとして再生した経緯を、建設に携われた武部建設株式会社の代表取締役武田豊樹様にご説明いただきました。宝水ワイナリーの元となった藤山海運軍需工場は、戦前の小樽の三大財閥のひとつである藤山海運の軍需工場として戦争中に建てられました。トラス構造で下屋つきの左右対称のトラス組が美しく、現代の建物として再生する価値は十分にありました。もともとの形を変えずに移築されたこの建物は1階にワインの



宝水ワイナリー

醸造施設と売店、2階はホールになっており、映画「ぶどうのなみだ」の特設コーナーもあります。2階からはぶどう畑が展望できるバルコニーがあり、もう少し経てば「ぶどうのなみだ」で見られたような清々しい緑のぶどう畑が眺められます。そしてお待ちかねの試飲コーナーでは甘口のワイン2種類を試飲させていただき、北の大地で育まれたワインに舌鼓を打ちました。

協議会を終えて

私は古い建物に興味があり、昨年開催されたヘリテージマネジメント専門職育成講座がきっかけで青年委員会に入りました。そんな経緯もあり、今回のブロック協議会の小林酒造や小樽の建物を移設したワイナリーにはとても興味がありました。特に小林邸は案内してくださった小林家の方から家への愛情が伝わってきて、永い時を経てこの家を守ってきた人々と、その人々との歴史を積み重ねてきた建物の姿に感動しました。こんな風に永く愛され続ける建物に関わる仕事がしたいと感じました。

昨年から青年委員会に入った私にとっては初めてのブロック協議会でしたが、沢山の方とお話することができていい機会になりました。青年委員会を中心に建築士会の活動に積極的に参加し、沢山の方と交流を持ちたいと考えております。よろしくお願い致します！



トラスの軸組みが美しい2階のホール

気になる建物 紹介し隊

行ってきました。北海道博物館

情報委員 森 田 ゆう子

今年4月18日、北海道開拓記念館（1971年開館）と道立アイヌ民族文化研究センター（1994年開所）が統合され北海道博物館（愛称：森のちゃれんが）が新たに開設されました。

北海道開拓記念館と北海道開拓の村は、札幌や近郊の小学生には馴染みの深い場所だと思います。社会見学などで訪れた方も多いのでは？それが今年「北海道博物館」として生まれ変わりました。テレビや新聞などでも何度か取り上げられていましたので、この話題を目にした方も多いでしょう。新聞記事で印象に残るのはインパクトのある青い海と大地に立つ、ナウマンゾウとマンモスゾウの骨格標本。ほとんどこれを見たくて訪問を決めました。



博物館に着くと、茶色いレンガに子供の頃の記憶が蘇ります。うん、確かにここ、来たことがある。訪れたこの日はゴールデンウィーク真っ只中。老若男女、家族連れやカップル、旅行者等々、話題の展示を見ようと多くの人が列を成していました。

そして出迎えてくれるのはあの巨大なゾウたち。思いのほか大きく、こんなののがそのそ歩いていたのかと思うと何だか不思議な感じです。原始時代を描いた漫画のような、

人間との死闘があったのでしょうか？

展示は五つのテーマに分かれて進みます。120万年前に遡った第一のテーマから、第二のテーマは「アイヌ文化」。アイヌ民族の歴史を辿りながら、暮らしと文化が分かり易く展示されています。海原あるいは川を渡る帆掛け舟や、信仰や伝えられてきた歌に楽器など、その文化に触れると人間も自然の一部なのだと感じるのです。

第三のテーマでは開拓時代から近年にかけての人々の様子が再現され、





厳しい自然環境で暮らす知恵などが展示されています。明治か大正でしょうか、列車の車内の様子を展示したコーナーは、北海道弁がふんだんに盛り込まれた会話が流れているのが面白かったですね。

第四のテーマ展示は、我々世代にはかなり懐かしいものばかり。昭和を彩る生活用品が並び、「わー、これ、うちにもあったわ」「足踏みミシン使ってたー」と話に花が咲きます。なんかやっぱり、昭和って良いなあ。

最後の展示は北海道の生き物たち。ヒグマやエゾシカ、リスなどの小動物、トドやアザラシなどの海獣や鳥類、鮭に代表される魚たち。こうして見ると、北海道って野性味あふれる場所ですね。自然の営みが再現されたコーナーでは、どんぐりを転がしたり、「開けてみよう」というフタを全部開け、シャチのベンチに腰を下ろして「はい！チーズ」。思わず童心に返るのです。

もっとじっくり見たかったのですが、せっかく来たのだから開拓の村も見ようと、駆け足で野外博物館へ。

正式名称は「野外博物館 北海道開拓の村」。明治～昭和初期の建物とその暮らしが再現されています。当時のものを移築して復元したとの事で、それが52棟もあるそうですから、その熱意と労力には感嘆します。当時を表す仕事の様子が人形で再現されているのですが、それがリアルでこの時

代の空気感が伝わってくるようです。調度品や職人さんの道具、売っていたものなどもかなり忠実に再現されています。実際に駄菓子などを売っているお店もあり、大人には懐かしく、子供には新鮮に映ったかも知れません。

この日は絶好の行楽日和。村内を往来する馬車鉄道が砂煙をあげて通ります。乗っている人たちは気持ち良さそう。でも曳いてる馬はちょっと暑そうだなあ。真っ白でやや小型のかわいいお馬さん。立ち止まりもせず、文句も言わず、何度も行ったり来たりしているのが意地らしい…

さて、小腹が空くも、人々でごった返すレストランをあきらめ、芝生で美味しそうな何かを広げているファミリーを横目で見ながら、開拓の村を後にするのでした。今度はお弁当持ってゆっくり見に来よう。



お問い合わせ

北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
●TEL：011-898-0466（ハローダイヤル）

北海道開拓の村

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌50-1
●TEL：011-898-2692

≡ 新入会員紹介 ≡

伊藤 尚	(株)総合資格 札幌営業所
川原 道崇	KAWANOJI
石原 誠	(株)NAC
古館 尚広	NAO 建築設計
上村 祐幸	上村建築設計
辻 貴雅	札建工業(株)
佐藤公一郎	一三北路(株)
石川 弘敏	北海道建設部住宅局住宅課
高田 翔生	武ダ技建創(株)
武井 義正	(株)北洋設備設計事務所
角野 健一	(株)建築舎
清野 武	積水化学北海道(株)
井上久仁彦	(株)札幌工業検査
吉田 徹	(有)吉田住建
鈴木 真人	(株)西原衛生工業所札幌支店
佐々木直樹	(株)川本鉄工所
麓 るい	パシフィックコンサルタンツ(株)
石山 剛	(株)岩見田・設計
楠山 秀貴	(株)札幌日総建
北村 公康	(株)札幌工業検査
高橋 雅人	(株)イエリード
中出 辰秀	ホームテイスト
笠原 理香	(株)建設コンサルタンツ
中野 雅裕	荒井建設(株)札幌支店

≡ 編集後記 ≡

今回の『街』は、今昔の話題が多いものとなりました。

前田さん、お元気ですね。好奇心が若さを保つ秘訣ですね。見習いたいと思います。

青年のページの「道央圏酒造工場見学ツアー」地酒は地場の食材と相性が良いですね。開拓期に「自分たちの酒は自分たちで」と造りはじめ、今では地元の農作物で造ると変化してきています。私たちが作る建物も、「地元の材料で」と変わってくるのでしょう。

母が車いすに乗るようになって、青年委員会時代に車いすの動かし方を教えてもらったことが役に立っています。世界中に困っている人がいて、私たちが微力ながらお手伝いが出来る事があればと感じた「とんでけ！車いす」でした。

(情報委員 安達あけみ)

表紙絵の説明

いつもは会員の子供の絵等を表紙にしていますが、今回は永年会員表彰を受けられた前田富子さんの貢献に敬意を表しまして、「街」の顔を飾って頂きました。

「表紙のことは」

もう10年以上続いている水彩画の“アリスの会”での最近の作品、「ペラルゴニウム」。花言葉は篤い信仰、決心。

喫茶店アリスで月1回、バックミュージックはエンヤ、コーヒーを飲みながら楽しい3時間を過ごしている。それぞれが思いのままに表現しているので、とても個性적でおもしろい。時には池の淵から豊平館を描いたり、郊外で森林浴も兼ねた写生会も昔のパースの描写法を思い出したり。下手は下手なりに楽しい。(前田富子)

支部だより「街」

2015.No.2

平成27年6月発行

発行—一般社団法人北海道建築士会札幌支部

〒060-0042 札幌市中央区

大通西5丁目11番地 大五ビル6F

TEL (011) 232-1843

FAX (011) 222-0924

情報委員会

委員長／森田ゆう子

副委員長／宮川 耕介 柳山美保子

委員／内海 純一 安達あけみ

那須 豊治 首藤 一弘

星野 里英 爪林 雅行

岩浪 次郎 川原 昌彦

後藤 朋恵 片岡 哲二

印刷—中西印刷株式会社

〒007-0823 札幌市東区東雁来

3条1丁目1-34

TEL (011) 781-7501

FAX (011) 781-7516